

重要文化財 笠間稻荷神社御本殿保存修理工事

◆御奉賛のお願い◆

笠間稻荷神社の御本殿は江戸時代末期の建築で、彩色の施しがない素木造りですが、装飾彫刻がふんだんに用いられており、昭和六十三年一月十三日に国の重要文化財に指定されました。造営時より幾多の自然災害等にも耐え、都度修繕を加えながら、御崇敬者皆様の信仰の場として今日までその姿を護持してまいりました。

令和三年十月、御本殿軒下に水染みが発見されたため、公益財団法人文化財建造物保存技術協会に調査を依頼しました。調査の結果、現状の本瓦形銅板葺は江戸時代に遡るものとみられ、経年による欠失や破損から雨水の浸水、浸水による腐れ等が生じており、御本殿屋根の全面的な修繕工事が必要であるとの判断に至りました。

つきましては、令和四年より令和七年まで「重要文化財 笠間稻荷神社御本殿保存修理工事」の工事期間（予定）とし、事業を進めてまいりたいと存じます。

本事業は御崇敬者の皆様の絶大なるご援助なくては達成が困難であります。御本殿、境内を清浄に保ち、稻荷大神様の御力の一層の発揚と、かけがえのない伝統文化を後世に正しく伝えるべく、神職ならびに関係者一同、引き続き神明奉仕を重ねていく所存でございますので、何卒格別の御高配をもって御奉賛賜りますようお願い申し上げます。

令和四年十二月

笠間稻荷神社



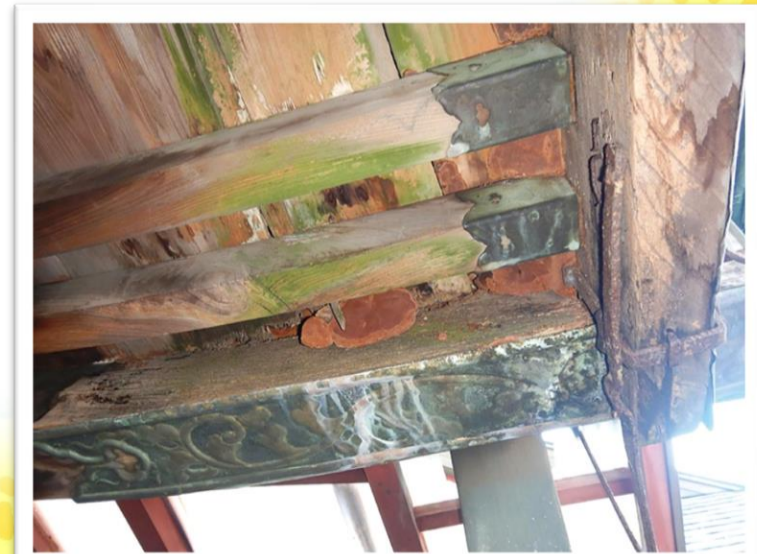
■鬼瓦の銅板包みが欠失し、木部に腐れが生じている



■笠間稻荷神社御本殿（国指定重要文化財）



■外陣北面の軒廻り小屋裏は野地・軒付けに腐れが生じている



■外陣北面の軒廻りに集水する造りにより、軒廻りの化粧材に腐れが生じている